

津島市民病院  
内分泌内科副部長

奥地剛之

## 副腎の病気について

## 副腎について

皆さんは副腎という臓器についてご存知でしょうか。副腎は、左右の腎臓の近くにある2-3cmほどの小さな臓器です。腎臓は聞いたことがあるけど副腎というのは聞いたことがない、という方も多くおられると思いますが、最近では健康診断や人間ドックなどで腹部CTや超音波検査などを受ける機会が増加しており、「副腎が腫れている」とたまたま指摘されることも増えてきています。

いったい副腎はどういう働きをしているのでしょうか。

## 副腎のはたらき

副腎は内分泌器官と呼ばれる臓器のひとつで、人体にとって必要不可欠なホルモンをつくったり、血圧、水分、塩分のバランスをちょうどよく保つホルモンをつくったりしています。これらのホルモンが多すぎたり少なすぎたりすると、様々な病気につながってしまいます。

副腎の病気にはどういったものがあるのか、いくつか挙げてみたいと思います。

## 原発性アルドステロン症

副腎ホルモンのうち、アルドステロンというホルモンが出過ぎてしまうことにより起こる病気です。アルドステロンは血圧の調整をしているので、原発性アルドステロン症になると高血圧になります。高血圧の患者さんの中の約5%を占めるともいわれており、高血圧の精密検査で発見されることもある病気です。長い間放っておくと、脳卒中や心筋梗塞につながってしまうため、適切な診断、治療が必要です。

## クッシング症候群

副腎が腫れて、そこからコルチゾールというホルモンが出過ぎてしまう病気です。コルチゾールはステロイドホルモンのひとつで、血糖や血圧、コレステロールなどの値を上げる作用があるため、多すぎると糖尿病や高血圧、高コレステロール血症を引き起こしてしまいます。さらには肥満や骨粗鬆症など様々な症状が出現します。

## 褐色細胞腫

腫れた副腎から、カテコールアミンという副腎ホルモンが出過ぎてしまう病気です。カテコールアミンはアドレナリン・ノルアドレナリン・ドーパミンの総称で、褐色細胞腫は高血圧、頭痛、動悸、高血糖などを引き起こします。

## 「副腎が腫れている」と言われたら

もし副腎が腫れている、と指摘された場合には、体の中の副腎ホルモンが出過ぎていないかを検査することが重要です。採血、尿検査で調べることができます。正確な診断をするために、負荷試験といって、検査薬を投与してまもなくの採血(例えば30分後、1時間後など)を確認する検査を行うことがあります。

また、副腎の大きさ・性状を確認するために、CT検査、MRI検査を行う場合があります。

シンチグラフィーといって、医療用の放射性医薬品を使用し、副腎ホルモンが分泌過剰になっている場所を特定する検査を行う場合があります。

## 最後に

副腎は様々なホルモンを分泌する臓器なので、病気の種類も症状も多彩なものになります。副腎に関する診療は内分泌内科で初期診療・診断を担当していますので、内分泌内科まで気軽にご相談ください。

